

たんぽぽ

NO.456

R7年8月1日

発行

〒869-1217

熊本県菊池郡

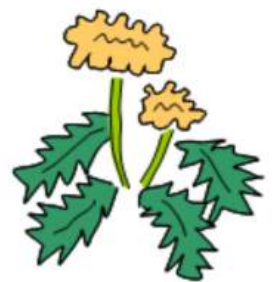
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



阿蘇山

理事長 松田 健

三気の里でも七夕に短冊に利用者さんの願いを綴ります。自分で書いた人もいます。言われたことをスタッフが書いたものもあります。スタッフが利用者さんの想いを代弁して一緒に手を添えて書いたり、スタッフが書いた物もあります。

その中に「プロレスラーになりたい」とありました。それを見て私は、自分も短冊に書きました。そして、九州プロレスへ七月七日にメールを送りました。三気の里は障がい者支援施設です。自閉症の方が八割おられます。プロレス好きの方もおられ、七夕の短冊にもプロレスラーに会いたいと書かれていました。私も「九州プロレスの方が来てくれますように」と書き

ました。入所65名、日中80名の方が利用されています。皆さん喜ばれると思います。何卒ご検討の程 よろしく
お願いします。

なんとその一週間後に快諾のメールをいただきました。7月31日に来園いただけるとのこと

しかも、熊本出身の人気レスラー阿蘇山さんなのです。夢が一週間で叶いました。嬉しくて、プロレス好きのスタッフを探しては話しました。天にも昇る気持ちでした。利用者さんの夢をかなえることは、自分の夢をかなえることなのだと思います。その逆もまた真なのだと思います。

当日、マスクマンがさっそうと車でやってきました。優しくて力持ち・・・そのままです。神々しくもありました。タイガー

マスクかと思いました。利用者の方も一瞬でファンになりました。

司会とリングアナウンサーを務めた小城スタッフが逆水平チョップを合意の上受けた時が最高潮でした。凄まじい音が室内に響きました。三分の一の力だったと。

最後にお姫様抱っこをしてくれました。みんな喜んでいました。私もしてもらえばよかったです。

会いたいと言った元々プロレス好きな方以外でもプロレス観戦に行きたいという方の声を数名聞きました。知ったことで好きになり、好きになった事で好きだと思えるようになりました。プロレスは一度観るとまた行きたくなるスポーツだと思っています。生で観るとその迫力に魅了されます。

九州プロレスさん、阿蘇山さん本当にありがとうございます。必ず今後とも応援します。みんなで観戦します。

追記 同じ大津町にある

「つくしの里」のプロレス好きの相談員さんが以前九州プロレスさんがつくしの里に来てもらったことがあると教えてくれたのでこの企画が実現しました。感謝申し上げます。

阿蘇山（あそさん）
（自称プロファイール）

標高1592m

体重測定不能

熊本県八代市出身。九州プロレス最大かつ最重量の巨体。躍動感にあふれる飛び技の振動と衝撃音はまさに「活火山級」。

第二代九州プロレス権王者。





8月



1班「暑い夏のはじまり」

涼しい時期が恋しくなる程の暑い夏が徐々に迫ってきました。1班の皆さんは、暑さでバテ気味な時もありますが、作業が始まるとキリッとした顔でお仕事を頑張っておられます。今年度から1班の皆さんと楽しいこと、ワクワクすることをしたいと思い、5月に「お弁当会」と称し、焼肉リーベのお弁当を購入して皆さんで食べました。日々忙しく仕事をされる中で、楽しみがあるということは、皆さんにとっても良い刺激になったと思います。7月は「アイスを食べようの会」を開催し、サーティーワンのアイスを購入しました！あらかじめ3種類に候補を絞り、その中から好きなフレーバーを選んでもらいましたが、やはりチョコレート系のアイスが人気でした。暑い夏、少しでも涼を感じられたらと思いましたが、美味しそうに食べている姿を見て、嬉しくなりました。次回も楽しみにしてもらえる内容を考えたいと思います！

生活支援員 宮岡 春菜

2班「ストライク！」

7月のレクリエーションでは、午前中はボーリングをしに菊陽ボウルに出かけました（私事ですが、10年以上ぶりのボーリングで上手く投げられるか当日までドキドキしていました）。会場に入るとピンの倒れる音や、ノリノリの音楽がとても賑やかで、皆さんのテンションもその楽しい雰囲気すぐに乗っていったように見えました。担当のYさんは、最初は投げる動作が難しかったようであまり楽しめていない様子。助走をしながら腰を少し屈めて、手を振り下ろしながらボールを投げる。普段はしないような動作に苦戦されていました。ですが、一緒に投げているうちに、なんとストライクを出しました！ついさっきまで、投げ終わった後はすぐに席に戻っていたYさん。この時だけは、ピンを次々に倒していくボールの行く末を見て、口と目を大きく開けてびっくりした表情をされていました。それからニコニコと楽しげな笑顔を覗かせていたYさんでした。皆さんの新たな一面を見る事ができた体験でした。

生活支援員 伊藤 愛理

3班「みんなで作ろう！」

6月の終わりに宇城市の三角町へレクリエーションに行ってきました。今回のメインはピザ作り体験になります。自分達で生地を伸ばし、ソースを塗り、具材を載せます。複雑な工程もありましたが、器用にピザを作っている姿を見ると「自宅で料理の手伝いをされているのかもしれないな～」と想像しました。三気の里での生活では、皆さんが料理をする姿を見る機会が無いため、とても新鮮に感じました。工程が終わったら、それぞれのオリジナルピザが石窯に運ばれ、5分もしないうちに焼きあがります。皆さん、とても美味しそうに召し上がっていました。今回、初めてのレクリエーションの企画を担当しました。計画の段階から沢山悩み、当日も緊張していましたが、利用者さんの楽しむ様子を見て「計画してよかった！」という気持ちになりました。体調不良で参加できなかった利用者さんが居た事だけが心残りです。次回のレクリエーションは「全員で参加できたらいいな～」と思います。

生活支援員 野尻 桃子

4班「4班の夏」

今年の夏は特に暑い日が続きます。そんな猛暑の中でも4班の皆さんは7月の七夕飾り、レクリエーションではカラオケと熊本市役所の展望レストランで外食と楽しい時を過ごされています。七夕飾りの短冊への願い事には「健康で過ごせますように」「病気が治りますように」など4班らしい短冊が飾られました。レクリエーションを楽しみにされていたKさん。数日前から「運転手は〇〇さん」「みんなでマイクロバスで行く」など楽しみな様子が伝わってきました。当日は皆さん外出着を着て嬉しそうです。いつもおしゃれなTさんも白いブラウスとネックレスがとてもお似合いです。これからも楽しい時をたくさん過ごして欲しいと願っています。

生活支援員 荒川 百合子



5班『自分で作った蕎麦は美味しさ2倍』

7月にレクリエーションがありました。今回は、南阿蘇にある「そば道場」へ行き、そばを作って食べるという体験を行いました。そば粉から、捏ねて、丸めて、伸ばして、切るという工程の中、利用者さんは粉を掬うように触る方、指で円を描くように粉を混ぜる方、粉を混ぜる時もめん棒を指差し「これ」と興味を持たれる方、そばを細く切る方、色々な太さで切る方、包丁を恐る恐る持たれる方と様々でした。自分達で作ったそばをかけ蕎麦かざる蕎麦にして食べることができました。皆さんあっという間に完食されていました。そばを作るという体験を通して、利用者さんの新たな一面を発見することができました。今後のレクリエーションでも色々な場所で色々な経験ができ、利用者さんが楽しめるレクリエーションを考えていきたいです。そしてその中で、利用者さんの新たな一面の発見にもつながってきたいです。

生活支援員 北岡 哲

GH便り「ステップアップ」

グループホームには各ホームのマニュアルがあります。日課や業務の流れのほか、利用者さん一人ひとりの生活状況や「できること」「手伝ってほしいこと」がまとめられています。毎年6月に見直しをすることにしており、今年もその時期がやってきました。1年前にも丁寧に確認したはずですが、「今はこの行動は見られなくなった」「今はこの支援は必要なくなった」「ここができるようになった」など多くの変化が見られました。例えば、起床時には付き添いが必要だった方が自分で身支度をしてリビングに来るようになったり、スタッフになかなか話しかけられなかった方がハッキリと名前を呼んで報告をしたり、お手伝いだった食事の配膳が生活の中の役割になったりとか。少しずつの進歩なので日々の生活の中では感じにくいことです。しかし、この見直しを通して「やれることは自分でやろうよ」という支援と利用者さんの努力の積み重ねが改めて感じられ、「次はどんなステップに進もうか？」と一緒に前進するのが楽しみです。

GHサービス管理責任者 平川 聖子

療育雑記

「暮らしを支える」

主任 石原佳奈

三気の里は、暮らしの場であると同時に療育に特化した事業所でもあります。療育そのものが日々の暮らしであり、生活そのものが日々の療育と切り離すことができません。三気の里は①人とやりとりができる（コミュニケーション）②自分をコントロールできる（自己コントロール）③人と一緒に暮らせる（不適応行動の是正と軽減）を療育方針として挙げています。私が入職して先輩に教えていただいたことの一つに利用者の方とのやり取りがあります。利用者の方は人とのやり取りの中で①と②を身に付け、人との関係性が構築されることで安心して過ごすことができ、不適応行動が軽減するため③が可能となります。本人も楽に過ごせるようになることの重要性を学ばせてもらいました。私自身現場で支援していく中で培った経験や勘（感覚）、情熱は個人的には必要なことだ

と思っています。しかし、それらだけだと本当に必要な支援、適切な方法や手順で支援が出来ず、利用者の方の権利を侵害してしまう危険性が高まってしまっています。そのため支援を行っていく上で重要なものの一つに「根拠」があります。三気の里は生活の場だけでなく、日中の生活介護やグループホーム、短期入所において支援員が交代制で利用者の支援を行っており、三気の里内でも複数の職員が関わっています。また家族や医療機関の方、他事業所の方など、利用者の方の生活は様々な関係者で支えられています。関わっていく上で、自分がどのような目的で、なぜそのような支援をしているのかを根拠を基に他者に説明できなければ必要な支援であっても共有されず、支援が結びついていきません。統一した支援ができていないことで利用者の方を混乱させてしまうことになりま。それぞれの関係者が思い通りの支援をしていると利用者の方が混乱してしまいます。また目的とズレた方向に向かっていくことさえあります。

そうならないためにも利用者の方のことを知ることで。利用者の方がどんな方なのか、何が苦手で、何が得意なのか等をご家族や、今まで関わってきた学校や事業所、医療関係の方たちに教えてもらい知ることが重要です。そうしたアセスメント（聞き取り）を基に利用者の方の特性に焦点を当てて、必要な支援は何であり、どのような順序で支援をするべきなのかを考え支援を組み立てていきます。また、苦手なことに対しては配慮した支援を行っていきます。例えば、一日の見通しが持てず混乱されている方でも、本人が分かるツール（絵や写真、文字など）を用いてスケジュールを見てわかりやすいよう提示することでスムーズに行動できる方がいます。一日の見通しが持てないという苦手な面も、絵や写真などを見て行動が出来る特性を活かすことで混乱なく過ごせるようになる事ができます。私たちは混乱なく過ごせる環境で人とのやり取りを身につけ、自分をコントロールできること、人と一緒に暮らせることを目指

し、利用者の方の暮らしを支えていけるよう、より幸せな生活ができるように努力していきたいと思っています。



支援課長便り

“支援”をする前に…

支援課長 岩田 幸児

「地域との連携を密にし、労働や共同生活を通して、その人らしい社会生活が送れるようにする。そのためには、個々が抱えている障がいに対して十分配慮すべきであり…」三気の里の運営理念の文章の一節です。「個々が抱えている障がい」の「個々」の理解が、利用者さんを“支援”する上でとても重要だと捉えています。重要と言うより、それなしに“支援”は出来ないというべきでしょう。自閉スペクトラム症は脳の機能的な障害と言われています。受け取る「情報」に対して、それぞれに「認知」や「認識」、「理解」が違い、その違いによって、起こす「行動」が違ってきます。利用者さんそれぞれの行動は、その「認知」「認識」「理解」の違いによって異なります。私たち支援者は、目に見える利用者さんの行動に対して支援しがちです。しかし、利用者さんを“支援”するために、その行動の根本にある個々の情報の捉え方をしっかり理解することを大切にして“支援”できる支援者チームで

ありたいと思っています。

夏祭り

夏祭り

生活支援員 白石 峻真

7月18日に毎年恒例の夏祭りを開催しました。生憎の雨ではありましたが、事故なく終えることが出来てとても安心しました。初めて行事の主として参加し、先輩方の力を借りて無事に実施できました。

食事は焼きそば、シウマイ、フランクフルト、おにぎりといった、夏祭りらしいメニューでした。利用者さんが美味しそうに召し上がっておられホッとしました。雨天の為、花火の代替案としてカラオケ大会を実施しました。利用者さんの弾ける笑顔を見るのができて、とても嬉しかったです。来年度も暑さなどに注意しながら、楽しい夏祭りになるようにしていきたいと思いました。



8月スケジュール

08(金) 芸術クラブ
09(土) eスポーツ
15(金) リハの日
21(木) 嘱託医来診
27(水) 強度行動障害支援者養成者研修
(実践研修) ~8/28
29(金) ゴールドクラブ
30(土) 陣内食堂

毎週月曜日 訪問理容サービス
毎週水曜日 BeTREE役場販売

BeTREE
＜営業時間＞9:30~17:30



betreeJ14

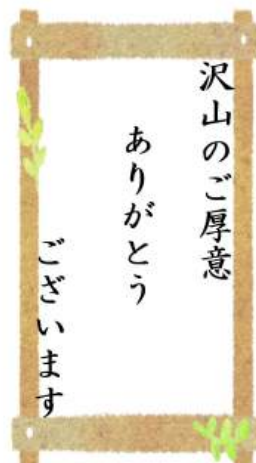
くまもとスポーツクラブ様
西日本防災システム様
よつば調剤薬局様
ダイハツ大津様
宇都宮建設様
井口チズヨ様
井上ちえ子様
井手上昌子様
中嶋久枝様
坂梨清美様
田中満子様
米田孝一様
中村秀隆様
櫻木勇夫様
清田栄一様
玉永昇様
金森保様

井上優様
魚谷秀文様
前田眞澄様
森川琇介様
松村俊介様
渡邊正司様
米村秋江様
吉山一男様
田中哲夫様
東坂富士代様
上田タキ子様
山本住建様

【寄付物品】

千田英文様 春野宗敏様
田中新一様 興呂木克昭様
三気の里家族会

【寄付】



【Vo】
前淵隆子様
ブラッシング

【後援会】
亀崎憲様
中島佐代様
田中基幹様
松枝由香様
亀崎幸久様
中村秀隆様
古川昌美様
松枝英子様

何故、日本の花火大会は8月に多いのか？皆さんご存じでしょうか？その起源は約300年前の江戸時代にさかのぼり、將軍徳川吉宗の命令により隅田川で「水神祭」とともに花火が打ち上げられたのが始まりです。この年は大飢饉や疫病で多くの人が亡くなったため、死者の慰霊と悪霊退散を祈る目的だったそうです。つまり花火はただの娯楽ではなくお盆の供養行事の一環でもあったのです。家族が集まる大切な機会が増える8月、皆さん良い時間をお過ごしください。

田淵晃一

編集後記

